

2021 年度 (令和 3 年度) 学校評価自己評価表

東	中学校区	校番 6	福山市立手城小学校
最終更新日			2021年(令和3年)10月1日

I 福山市	<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区	
前年度学校関係者評価の主な内容	<p>・中学校区で課題を的確にとらえ、目標を共有し、授業改善に取り組んでいる。</p>
児童生徒の現状	<p>・考えや思いを伝え合うコミュニケーション能力や相手を思いやる心が育ちつつある。</p> <p>・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や課題解決のための情報収集力に課題がある。</p>
育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力、表現する力、自他の尊重
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識する力、自己決定する力、表現する力をもった子
中学校区として統一した取組等	<p>・学びを楽しむ児童の育成（主体的な学びの推進）</p> <p>・よりよい生活を考えて行動する児童の育成（長期欠席者ゼロへの取り組み）</p> <p>・社会に貢献する児童の育成（ESD教育への取り組み）</p>

III 自校	
ミッション	学校・地域・家庭が一体となって「ふるさと福山」に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる手城の子どもを育てる。
学校教育目標	自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成
現状	<p>〈児童生徒〉</p> <p>・標準学力調査において、特に国語科の読む力、算数科の活用する力が十分でないことがわかった。基礎学力は定着しつつあるが、思考力・表現力、学びに向かう力に課題がある。自ら課題を見付け追及したり、コミュニケーションをとりながら学び合い、表現活動をしたりする場の設定が求められる。</p> <p>・校内では、掃除を一生懸命したり規律ある行動をしたりすることができる児童が多く、落ち着いた学校生活を送ることはできている。一方で、校外での生活は、校内の生活が活かされていない。また、自分に自信の持てない児童もあり、自己肯定感や自己有用感を高めていく必要がある。</p> <p>・長期欠席者は減少しているが、週明けに欠席する児童は多い。</p> <p>〈授業〉</p> <p>・主体的な学びを実現するために、教師の授業力を高めていく必要がある。</p> <p>・体験的活動や協同的学習の場や工夫が不十分である。（総合的な学習の時間の充実）</p>
育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<p>課題発見・解決力 課</p> <p>表現する力 表</p> <p>自他の尊重 尊</p>
低学年	<p>学習や生活の中から進んでふしぎを見つけ出す子</p> <p>自分の思いや考えを、進んで相手に伝える子</p> <p>友達の気持ちが分かる子</p>
めざす子ども像 中学年	<p>進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子</p> <p>ペアやグループで、互いの思いや考えを伝え合う子</p> <p>相手のことを思いやり、進んで親切にする子</p>
高学年	<p>自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子</p> <p>伝え合いを通して、自分や友だちの考えをよりよいものにする子</p> <p>だれに対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする子</p>
研究	<p>テーマ 主体的に学ぶ児童生徒の育成 ―自他を認め合う授業づくり―</p> <p>内容等 「学び合い」を通して、自他を認め合う、道徳科・図画工作科の授業づくりを研究していく</p>
めざす授業の姿	<p>学びを楽しみ、深める授業</p> <p>・自分の考え（思い）を工夫して伝えている。</p> <p>・自他の違いを認め合いながら、協働的に学んでいる。</p>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

							福山市立		手城小		学校		
年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価 (10月1日)			最終評価 (2月末)			
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価
1	主体的な学びの推進 学びを楽しみ、深める児童の育成	★	継続	交流を通して、自分や友達の考えをよりよいものにする 表	○1時間の授業の中に児童が表現する場や児童同士が交流する場を必ず入れる。	○「友達と考えを交流することで、学びが深まった」と答える児童90%以上	4	3	◎継続して、学び合い学習に取り組んでいくために、提示する問題や発問の精選に取り組んでいく。また、学年の発達段階に応じて、デジタル機器を活用し、考えを交流する場を増やしていく。				
			継続	家庭学習の自己決定 課	○1週間の計画を立てて取組み、週末には必ず振り返りを行う。	○1週間分の課題の学習計画を立てることができる児童80%以上	3	3	◎継続して、計画表を活用したり、自分に宿題を出したりする取り組みを行っていく。				
1	長期欠席者ゼロへの取組 よりよい生活を考え、行動する児童の育成	★	継続	主体性を育む児童会活動・学級活動の充実 尊 課	○係活動や委員会活動で、学級や学校がよりよくなるための取組を考え、実践し、月1回振り返りをする。	○学級や学校がよりよくなるための取組を考え、実践することができる児童80%以上	3	3	◎継続して、児童が主体となって取組を考えて実践していくために、よくなったことをわかりやすく具体的に評価し、改善点を一緒に考え、児童が自分たちで進んで活動できるように支えていく。 ◎主体的に行動していることやできていることを認めたり、自分たちで活動を振り返り、評価したりしていく。				
			継続	自分の生活を自己管理する力 課	○学期に1回、就寝時刻と起床時刻を設定し、守れるようにする。	○規則正しい生活ができる児童80%以上	3	3	◎十分な睡眠時間が確保できるように、就寝時刻と起床時刻を自分で決め、守れるようにする。				

1	ESD教育への取組 地域に関する児童の育成	継続	学校や社会に貢献するために自分で考えて行動することができる	○SDGsとの関連した単元づくりに努め、児童が自らのできることを考えさせる場を設定する。	○「学校や社会に貢献するために自分で考えて行動している。」と答える児童80%以上。	総合的な学習とESDを関連して考えさせたり、SDGsとの関連した単元を仕組んだりすることにより、少しずつ学校のためにできることを考えられるようになっている。(70.1%)	3	3	◎特に中学年・高学年では学校だけでなく社会のために貢献できる行動を考えられるようにするために、ESDに関連する活動の後には、自分にできることを考えさせる活動を取り入れる。					
			課											
1	教職員の元気・笑顔	新規	元気に児童と向き合う職場環境。	○放課後時間を確保し、教育内容について語れる職員室にする。	○仕事に意義とやりがいを感じている教職員100%。	帯タイムを見直すなどして下校時刻を少し早くしたり定期的に学年会を設けたりして放課後に教育の内容について語れる時間をとった。(95.5%)	3	3	◎児童のために何ができるか、定期的に学年会を持つなどして語り合う職場づくりと元気に児童と向き合える職場環境を作っていく。					
				○時間外勤務年間360時間以内にする。	○時間外勤務年間計画に基づく月目標達成80%以上。	ICTなどを活用した業務改善や毎日の退校時刻前の声かけなどを行った。(54.4%)	2	2	◎効率よく協力し合ったり計画的に見通しを持って業務を行ったりできるように常に確認していく。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。